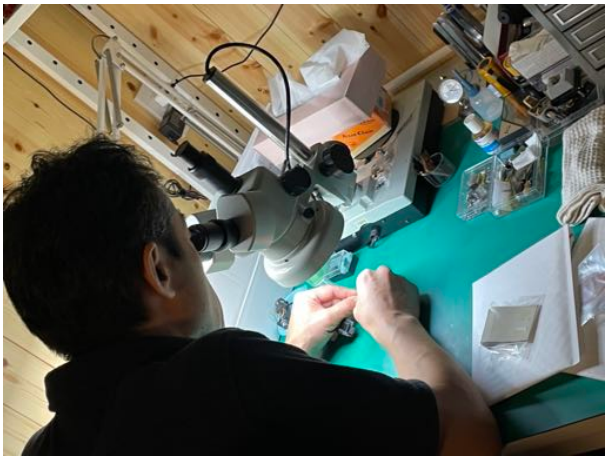
kumachanのひとりごと（オーディオ漫遊記3）

カートリッジマイスター伊藤ラボ訪問記



伊藤　文也さん、アナログレコードに惚れ込み、大手カートリッジメーカーで研鑽を積まれ、現在は独立、主にオークションや、オーディオショップとの取引で、針折れや、チップ摩耗のカートリッジ、交換針のメンテナンスを正業とされている有能な技術者です。私も一年前より、ネットオークションを通してお付き合いをさせて頂いており、彼の技術の高さに驚くばかりの日々を過ごして居りました。今回、お願いしていたMMカートリッジの針曲がりの修正完了と交換針のオークション落札のタイミングが重なり、お招きに預かり、念願叶ってのご自宅訪問をさせて頂きました。

秋田県南部の我が住まいから２時間半、午後１時前に道の駅「天童温泉」到着。１時の時報と共に霧状の噴水が出迎えてくれました！。せっかくの山形天童、蕎麦を食べなくては！　小綺麗な店舗のイートインコーナーで食券を購入、お勧めNo1の蕎麦と中華麺の相盛りを頂きました。

プロと言う名が
ピッタリ

１時30分、伊藤ラボの仕事場兼オーディオルームにたどり着きました。

15畳ほどのオーディオルームに押入れをカートリッジ修理スペースに改造したと聞きました。趣味人いやプロの住処と呼ぶにふさわしい空間です。

レコードの収蔵スペースもたっぷりで、ロック系のライブラリーは圧巻です。

私も興味のある和物のフュージョン系、世界的な流行の兆しのあるシティポップ、松田聖子などの高音質盤など複数所有されています。音楽に親しんだ年代が

近いせいか、ここに居るとすごく嬉しくなります。何度も足を運ぶことになりそうです。

カートリッジに関して色々教えて頂きました。DJ御用達の代表格の機種、「シュアーM44G」に10年以上前に新品で買った、針圧が掛けられるM44-７の純正針を持参して、スタイラスの摩耗具合を見て頂きました。　少し歪む感じだと思っていたので、伊藤マイスターからがどんなジャッジが下されるか興味深々でした。早速顕微鏡で針先を覗いて「レコードとの接触箇所にほんの少し平面が出ているかな！」でした。私にも顕微鏡を覗かせて頂きましたが、確かにその様な白く光る点が見えた様に感じましたが正直言ってあま

り、明確には判りませんでした。そして、楽しいリスニングタイムを迎えました。マイケルジャクソンの大ヒット作品「スリラー」を選び、お手持ちの針を３種類用意して頂きました。

ボディは固定して針のみを取っ替え引っ替えします。

１）私の持込んだ少しすり減り感のある接合丸針純正品

＞元気はある、バランスも良い、高域の伸びは程々で、妙にサ行にジャリつく歪感あり。これが摩耗の兆候かも。

２）他社製カンチレバー＋楕円針

＞音量が下がって聴こえ、品は良いが音場が小ぢんまり。聴いたレコードのジャンルが違えばまた違った印象かも。クラシック向きか？。

３）純正カンチレバーに無垢丸針を入れ替えた修復品

＞歪み感は無し。オリジナルに近い音調、正確にトレースしている感じ。これを聴いたら、接合針は聴けない。これは良い、純正を超えた感じ。

この３種を繰り返し聴かせて頂き、特徴を確固たるものとする事ができました。

他に興味のあった、「シュアーV15Ⅲ」初期型・後期型、「シュアーV15Ⅳ」の純正針、修復針の比較など、貴重な時間を持つ事ができました。国産では息の長いオーディオテクニカのVM型150系のカートリッジの音を最近聴き始めた私ですが、結構音色は似た感じを受けました。甲乙つけ難いけれど、ドライな力感で勝るのが「シュアーV15シリーズ」、しなやか基調の軽快さでグイグイくるのが、オーディオテクニカかなと。あくまで主観です。JAZZにはシュアーV15シリーズが定番であると皆さんおっしゃいますが、改めて納得しました。

聴かせて頂いたオーディオシステムも色々と名機をお持ちで、レコードプレーヤーはヤマハGT2000、パイオニアPL-70LⅡ、ストックは多岐に渡りDENON、Victor、CEC、他。アンプのメインは、真空管で有名なトライオードのフォノEQ付きプリ＋モノパワー（300B PP）2台でB&W　CDーM1をドライブする構成。

　スピーカーから放たれる音そのものに納得できない物を感じていると伊藤さん次なる方向性を模索しているとの事でした。私の感想は、スピーカーに対してアンプの音造りの方向性が違っているのではと思うので、お節介ですが、私が日々使用しているESIエレシステム製のトーンコントロール機能を備えた真空管アンプを試しに繋いで聴いてもらえたらと思いました。それに、ESIエレシステム製フォノイコライザーも試して欲しい。ESIエレシステムのトーンコントロール機能を組み込んだ新作プリメインアンプが試作段階にある事を知っていますので、完成したら最初に持込んで聴きたいと本当に思いました。「仕事柄、必要なんで」と見せて頂いたコレクション？商品？圧巻でした。やはりプロです、伊藤さん。知識が半端ないです。ロゴの色違いが製造年代の違いなどなど、修理をするからには正規品は必ず持っていなければとの事。修理済みのものが大多数ですがどれも直ぐ聴ける状態です。これ見るだけでもワクワクします。多分、オリジナルを超える音で我々を魅了する怪物達が潜んでいる筈です。

伊藤さん、オルトフォンのMC　ジュビリーがお気に入りとの事。プロの眼力！。

Jheena Lodwickの名盤

Getting To Know You

第１曲目「A Groovy Kind Of Love」の冒頭、印象的な打楽器の重低音炸裂をDL-103のボロンカンチレバー交換品で聴かせてもらいました。これは、レコードで聴かないとダメです。この楽曲を収めているベスト盤のCDを持っていますが、こんなに重量を感じる音だったんだと初めてわかりました。家に帰り、聴き比べしましたが、レコード程の感動は湧いてきませんでした。今ではこのアナログ盤、有名になり過ぎて手に入りにくいよと、伊藤さんから釘を刺されました。一層欲しくなります。貸して頂ける方が居れば、ハイレゾで取り込んでみたいです。アナログの魅力をデジタルで捉えられるならばこれはこれで面白い事。もしかして、今自分が出来る一番興味のある事に違いありません。ひょっとしてこれ事業化して商売になるんじゃない？？？

伊藤さんから、また来ても良いとのお許しを頂いて、帰途に着きましたが、最後に気になっていた道の駅のジェラートを食べたくて戻りました。濃厚バニラと芳潤ラフランスの２種盛りをペロリ。

大満足の一日でした。